

本願寺 御歴代門主シリーズ その十七

本願寺第十八代宗主

文如(もんによ)上人(一七四四年〜一七九九年)

文如上人は、一七四四(延享元)年に誕生、十一歳でお得度され、その後、一七八九(寛政元)年、父である法如(ほうによ)上人ご往生の後を受け、四十六歳で本願寺の法灯を継職されました。

文如上人は学問や芸道に秀でられ、若年の頃より大原魚山声明(おおはらぎよざんしょうみょう)・天台声明(たいがいしょうめい)や龍笛(りゅうてき)・箏(こ)などを習得されたほか、詩歌・書道・茶道なども習得され、「悠々子(ゆうゆうし)」の雅号のもと才覚を發揮されました。

文如上人は、明和年間(一七六四年頃)に飛雲閣の庭園を整備され、「滴翠園(てきすいえん)」とよばれる名園(現在特別名勝に指定)を完成されました。

また、本願寺は一六三四(寛永十一年)のころより藪内(やぶのうち)流を本願寺境内に庇護しており、文如上人は特に茶道について藪内流家元の指南をうけ、一七九四(寛政六年)年に免許皆伝となり、その翌年、飛雲閣(ひうんかく)東側に藪内茶室「燕庵(えんなん)」の様式を模し「憶昔(いくしやく)」という茶室を増築され、その茶室は今日まで現存しています。



本願寺第十八代宗主 文如(もんによ)上人

しかし、文如上人は健康面においてあまりすぐれなかった様子で、一七九九(寛政十一年)六月十四日、病のため五十六歳で往生されました。

宗主としてのご在職はわずか十年ほどでしたが、この間、宗門は三業惑乱(さんごうわくらん)という宗派を二分する宗義論争の渦中であり、文如上人は、宗内の※1異解(いげ)「異安心(いあんじん)や※2学林(がくりん)の動向に対して長文の御書を発給して事態を引き締めらるるなど、宗門のご興隆に努められました。

※1 異解異安心：親鸞聖人と異なった宗意の解釈と安心

※2 学林：宗門として宗学の研究・研鑽などを行う学所

※参考文献 福岡光起著

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)

七月 十六日(水) 午後一時半

*毎月十六日に本堂において

勤めております。

「夏の子ども会」(善教寺本堂)

八月 四日(月) 午前十時半〜午後三時

講師 根来智師 (呉市阿賀北宝徳寺)

*仏教婦人会主催行事

仏さまの話を聞き、本堂でゲームをします。

昼食は、仏教婦人会役員さん手作りカレーを頂きます。

「孟蘭盆会納骨法要」(善教寺本堂)

八月 八日(金) 昼席：午後一時半

九日(土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 朝枝暁範師 (北広島町中原本立寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

ご縁に感謝